

社会貢献



- ・ 本学教育学部保健体育講座 春日研究室が「Sport in Life 2022賞」を受賞
- ・ 地域ラボ・高山オープニングセレモニーを開催
- ・ 地域ラボ・中津川及び地域ラボ・岐阜のオープニングセレモニーを開催
- ・ 「ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト」大学見学会を開催
- ・ FC岐阜主催イベント「脱炭素社会を考える日」に展示ブースを出展
- ・ 安八町と連携に関する協定を締結
- ・ SPARC-GIFU地域連携プラットフォームを結成
- ・ 愛知銀行および中京銀行と「産学連携活動の協力に関する協定」を締結
- ・ 垂井町と連携に関する協定を締結
- ・ 神戸町と連携に関する協定を締結
- ・ 池田町と連携に関する協定を締結
- ・ 「岐大生 住んでみよう!」プロジェクトを開始し、学生が揖斐川町に住み始めます
- ・ 第1回SPARC-GIFUシンポジウムを開催
- ・ 白川町と連携に関する協定を締結
- ・ 川辺町と連携に関する協定を締結

本学教育学部保健体育講座 春日研究室が 「Sport in Life 2022賞」を受賞

【概要】

2023年3月7日（火）に、スポーツ庁が主催する「第2回Sport in Lifeアワード受賞団体表彰式」において、本学教育学部保健体育講座 春日研究室（春日晃章 教授）が「Sport in Life 2022賞」を受賞しました。

第2回「Sport in Lifeアワード」とは、スポーツ庁が主催して、一人でも多くの方がスポーツに親しむ社会の実現のため、「Sport in Lifeプロジェクト」として、スポーツ人口拡大への貢献に資する優れた取り組みを表彰するものです。このたびの受賞では、春日教授と岐阜県スポーツ協会が中心となって推進する「つよいぞ！ぎふっ子」プロジェクトなどの活動が優れた取り組みとして高く評価されました。本プロジェクトでは、コロナ禍による子どもたちの運動不足解消を目的として、県内各地の小学校や幼稚園を訪問しながら、子どもたちが楽しく日常的に運動を行う習慣を定着化させるための「運動遊び」を教える活動をしています。

4月11日（火）には、春日教授と春日研究室に所属する学生5人が学長室を訪問し、受賞の報告を行いました。春日教授は「運動の好き嫌いに関わらず運動が楽しいと子どもたちに感じてもらい、それが習慣化されるよう工夫して活動している。また、体育の授業が苦手な子どもでも楽しめるようこの取り組みを学校の先生たちにも活用してほしい」と話しました。吉田学長からは、「小学校における教育は日本の未来にとって大きな役割を担っておりこのような活動は大変素晴らしい。社会のニーズに対応するため高齢者に向けた活動も発展させていってほしい」と激励しました。



受賞報告の様子



記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/4/12	中日	運動不足解消 活動で表彰 岐阜大・春日教授 スポーツ庁から ～ 教育学部 春日晃章 教授 ～

～社会連携に関連する取組～

本学教育学部保健体育講座 春日研究室が「Sport in Life 2022賞」を受賞

【テレビ等放送】

放送日等	番組名	内容
2023/5/5	CBCテレビ 「チャント！」 15:49～	近年の子どもの体力低下について、対策などコメント 教育学部 春日晃章 教授
2023/5/10	NHK総合 「ニュース7」 17:00～17:30	コロナの影響で全国的に子どものロコモティブシンドローム（運動器障害）が問題になる中、春日教授が各地の小学校で予防策として取り組んでいる、オリジナルのリズムダンスや運動遊びなどの取り組みを紹介 教育学部 春日晃章 教授

地域ラボ・高山オープニングセレモニーを開催

【概要】

令和5年4月16日（日）に、地域ラボ・高山（高山市下二之町6（高山市若者等活動事務所「村半」内）で地域ラボ・高山のオープニングセレモニーを開催しました。

地域ラボは地域活性化人材育成事業（SPARC）「ぎふ地域創発人材育成プログラム～地域活性化を目指した知的基盤の確立～」の目的である地域社会の課題解決につながる活躍や新規事業の創業・起業、地域社会での共生ができる人材育成に取り組むための拠点となるものです。

セレモニーでは、高山市長をはじめ地元の方々、SPARC-Gifuとして大学間連携を組む中部学院大学長、岐阜市立女子短期大学長にもご参加いただき、SPARCの概要説明、地域ラボ・高山の取り組み説明の後、看板除幕を行いました。

地域ラボ・高山では、現地実習の拠点になると共に、中・高校生向けセミナーや社会人向けリスキリング教育を実施することで、古くからの伝統産業や観光資源による地域活性化、人口減少などの課題に対して、地元の皆様と一緒に取り組んでいきます。



看板除幕の様子



地域ラボ・高山が設置された村半

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/4/15	岐阜	「地域ラボ」の役割議論 岐阜大、県内に今月3カ所開設 学生や社会人ら座談会 ～ 社会システム経営学環運営「地域ラボ」～
2023/4/18	日本経済	岐阜大、地域振興へ拠点 3大学共同、自治体と連携強化 課題解決、実習の場に ～ 吉田和弘 学長、杉山誠 副学長 ～
2023/4/19	岐阜	高山市で「地域ラボ」開設 岐阜大など連携 人材育成の拠点に ～ 社会システム経営学環運営「地域ラボ」～

地域ラボ・中津川及び地域ラボ・岐阜の オープニングセレモニーを開催

【概要】

令和5年4月29日（土）に地域ラボ・中津川（中津川市新町1番15号）で、4月30日（日）には地域ラボ・岐阜（岐阜市神田町6丁目11-1協和第2ビル（カンダまちおこし株式会社内））でオープニングセレモニーを開催しました。

地域ラボは地域活性化人材育成事業（SPARC）「ぎふ地域創発人材育成プログラム～地域活性化を目指した知的基盤の確立～」の目的である地域社会の課題解決につながる活躍や新規事業の創業・起業、地域社会での共生ができる人材育成に取り組むための拠点となるものです。

オープニングセレモニーでは、市長をはじめ地元の方々、大学間連携を組む江馬中部学院大学長、畑中岐阜市立女子短期大学長にもご参加いただき、取り組み説明、看板除幕などを行いました。

青山中津川市長からは、若者の可能性を生かした次世代に向けた取り組みになること、柴橋岐阜市長からは、学生が大学から外に出て、自治体や企業と一緒に地域の課題に取り組む拠点になることへの期待が寄せられました。

地域ラボでは、地域課題、地域振興に貢献できる取り組みを展開していく予定です。



4月29日（土）
地域ラボ・中津川 看板除幕の様子



4月30日（日）
地域ラボ・岐阜 看板除幕の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/5/2	中日	地域の人材育成拠点に 岐阜大が「地域ラボ・岐阜」開設 ～ 後藤尚久 教授 ～
2023/5/9	岐阜	中津川で地域課題解決 岐阜大が「ラボ」開設 ～ 土本新一 特任教授、吉田和弘 学長 ～

「ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト」 大学見学会を開催

【概要】

令和5年6月15日（木）に、本学男女共同参画推進室は「ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト」の取組の一環として大学見学会を開催しました。

「ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト」は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」（令和5年度）の採択を受けて実施されるものです。本プロジェクトでは、研究におけるダイバーシティの確保やジェンダード・イノベーション創出に向けて、岐阜県内の女子中高生、保護者、教員等を対象に理系の魅力を伝え、女性研究者のキャリアパスやロールモデルの提示を推進し、理系進路選択を応援するための各種取組（出前授業、企業見学・交流会、研究施設見学会、講演会など）を予定しています。

今年度の大学見学会では、岐阜市教育委員会の探究学習事業「ぎふMIRAI's」と連携し、岐阜市立長良中学校2年生101名の参加がありました。

大学構内見学の後、大藪千穂副学長（男女共同参画推進室長）から本学の学部やキャンパスライフ、卒業後の進路等についての説明がありました。続いて、理系分野の学部生、大学院生5名がリレートークを行い、「苦手」よりも「好き」を重視した進路選択の経験や大学生活での様々な出会い、将来のキャリアプラン等について熱く語りました。

後半は、学内施設である地域連携スマート金型技術研究センターおよび附属図書館を見学しました。地域連携スマート金型技術研究センターでは、金型のプレス実験を見学し、AIを活用した最新の金属加工技術について大学教員が分かりやすく説明しました。附属図書館では、膨大な蔵書を誇る書架のほか、動物の剥製や骨格標本を多数展示する附属図書館のアーカイブ・コアを見学しました。

参加者アンケートでは、生徒から「在学生の話を通じて様々な進路の選び方があることがわかった」「理系のなかにも多くの専門分野があることを知った」「理系科目に対する興味が高まった」など、理系分野への興味・関心の高まりを強く感じさせる感想が数多く寄せられました。また、同行した中学校教員からは、「生徒たちにとって未知の世界を知る貴重な機会となった」「将来の進路選択に役立つ体験になった」といった声が届くなど、学びや進路、仕事について生徒と教員がともに理解を深める貴重な機会となったようです。

「ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト」では、岐阜県内の女子中高生や保護者、教員に向けて様々な取組を企画しています。取組の詳細についてはプロジェクト事務局（habataki@t.gifu-u.ac.jp）までお問合せください。



在学生によるリレートーク



地域連携スマート金型技術研究センターの見学

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/6/24	中日	女子の理系進学応援 岐阜大が中高生ら対象プロジェクト ～ ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト ～
2023/6/24	日本経済	岐阜大、在学生在が魅力発信 女性の理工系進学、東海でも後押し 研究・就活説明、学内も案内 ～ 男女共同参画推進室長 大藪千穂 副学長 ～

FC岐阜主催イベント「脱炭素社会を考える日」に 展示ブースを出展

【概要】

岐阜大学地域協学センターと脱炭素・環境エネルギー研究連携支援センター（脱炭素センター）は、令和5年7月15日（土）に長良川競技場・芝生広場にて開催された株式会社岐阜フットボールクラブ（FC岐阜）主催イベント「脱炭素社会を考える日」に出展しました。

本イベントは昨年に引き続き2回目の開催で、FC岐阜のホームゲーム観戦来場者に対して、本学が実施する脱炭素に関する教育・研究・社会貢献の取り組みを知っていただくことを目的にブース出展しています。展示ブースでは、地域協学センター、脱炭素センター、環境対策室等の紹介パネルを展示したほか、マイうちわの作成体験コーナーを設け、来場者に「手作りうちわと冷房器具を組み合わせ、暑い夏を省エネで過ごしましょう。」と呼びかけました。

当日はサッカー観戦に6,400人のサポーターが訪れ、展示会場も賑わいました。本学の展示ブースで実施したマイうちわの作成体験には20人ほどの親子連れが来場しました。会場には本学以外にも県内企業や自治体併せて10団体がそれぞれ出展し、脱炭素社会づくりに関する普及・啓発活動を行いました。

本学とFC岐阜は、2017年に連携協定を締結しており、今回の出展は本協定に基づいて実施されたものです。本学は、今後もFC岐阜と協働して、持続可能な脱炭素社会づくりに貢献するための活動を展開してまいります。



岐阜大学地域協学センター出展ブースの様子

安八町と連携に関する協定を締結

【概要】

本学と安八町は、令和5年10月31日（火）に連携に関する協定を締結しました。

本学と安八町は、これまでも大学教員が防災講話を行うなど連携を進めてきました。本協定では、本学と安八町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。

なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは33件目です。

協定締結式では、岡田立安八町長から、「岐阜大学と連携を密にし、広範囲の知見や学生の発案から、営農者不足や交流人口の増加、公共交通の整備をはじめとした町の課題に対応していきたい。」、吉田和弘岐阜大学長から、「岐阜大学は日本一の地域中核大学を目指しており、産業・まちづくり、ものづくり・食づくり、医療づくり、人づくりを強みにして、新たなイノベーションにより、地域に貢献していきたい。また、学生の学ぶ場の提供をお願いし、共に学べるような連携を図っていきたい。」と挨拶がありました。

今後、岐阜大学と安八町は、人材育成及び公共交通、交流人口に関することを中心に連携を深め、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



協定書にサインする吉田学長



吉田学長と岡田町長を囲んで集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/11/1	岐阜	まちづくり、岐阜大と連携 安八町が協定締結 ～ 吉田和弘 学長 ～
2023/11/3	中日	持続的な町づくりへ 岐大と包括連携協定 安八町
2023/11/24	読売	安八町と岐阜大 町づくりで協定 ～ 吉田和弘 学長 ～

SPARC-GIFU地域連携プラットフォームを結成

【概要】

岐阜大学は、令和4年度に採択された大学教育再生戦略推進費「地域活性化人材育成事業～SPARC～」の一環として、「ぎふ地域創発人材育成プログラム～地域活性化を目指した知的基盤の確立～」(SPARC-GIFU)の活動を開始しています。このプログラムでは、産業界、行政、高等教育機関、金融機関等の協力により地域連携プラットフォームを結成し、地域社会が求める人材の明確化やそれに即した教育を促すことで、地域社会のニーズに即した人材育成に取り組むこととしています。

11月20日(月)に、「SPARC-GIFU地域連携プラットフォーム」を結成し、第1回運営協議会を開催しました。その後、構成団体が出席した記者会見を実施しました。「SPARC-GIFU地域連携プラットフォーム」は、地域社会が求める人材像を明確に定義し各大学等に示すとともに、それに即した事業に取り組んでいるか評価を実施することで、SPARC-GIFU事業の駆動部として機能する役割を果たしていきます。

記者会見では、SPARC-GIFU事業責任者である岐阜大学杉山副学長からSPARC-GIFU地域連携プラットフォームの概要を説明し、代表に選出された長良川温泉女将伊藤会長から「地域社会が真に必要とする人材育成を実現し、地域社会の発展と課題解決に寄与する生きたプラットフォームをつくっていききたい」と結成に係る挨拶を行いました。次に、構成団体を代表して岐阜県及び株式会社十六銀行から抱負と期待が述べられました。最後には、SPARC-GIFU事業関係大学として岐阜大学吉田学長、中部学院大学江馬学長及び岐阜市立女子短期大学畑中学長から連携教育に関する展望が述べられました。

今後は、SPARC-GIFU地域連携プラットフォームが地域社会との連携を強化し、必要な人材を育成するためのプログラムを継続的に展開していきます。また、さまざまな機関や企業と協力しながら、地域の発展に向けた取り組みをさらに加速させ、地域社会のニーズに応えるための活動を積極的に推進していきます。



挨拶をする伊藤代表



記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/11/25	日本経済	地域活性化へ 人材育成組織 岐阜大など14社・団体～「SPARC-GIFU市域連携プラットフォーム」～

愛知銀行および中京銀行と 「産学連携活動の協力に関する協定」を締結

【概要】

岐阜大学は、11月22日(水)に株式会社愛知銀行（頭取：伊藤 行記）および株式会社中京銀行(頭取：小林 秀夫)と「産学連携活動の協力に関する協定」を締結しました。本協定は、本学の学術研究の振興とその成果を地域経済の活性化に繋げるための産学連携活動において相互に協力していくことを目的とするものです。

県外地域との緊密な関係を強化するため、愛知県に本店を置く金融機関との連携協定締結は初めての取り組みとなります。

締結式では、王副学長（産学連携担当）が「本学の強みである、ものづくり、ライフサイエンスを中心に、企業の皆さんと協力しながら地域の活性化に貢献していきたい」と述べました。

今後は、本協定締結によって互いの連携を強化し、地域社会との一体感を高めながら、地域経済の活性化および両行の取引先企業の課題解決支援に向け、より一層貢献していきます。



集合写真

(左より) 愛知銀行鈴木取締役、岐阜大学王副学長、中京銀行村尾取締役

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/11/25	中日	愛知銀・中京銀 岐阜大と協定 産学の連携強化へ ～ 王志剛 副学長 (産学連携担当) ～

垂井町と連携に関する協定を締結

【概要】

岐阜大学は、令和5年12月12日（火）に垂井町と連携に関する協定を締結しました。本学と垂井町は、これまでも大学教員が庁舎建設や小中学校教職員対象の研修を行うなど連携を進めてきました。本協定では、本学と垂井町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは34件目です。

協定締結式では、早野垂井町長が「岐阜大学と連携を密にすることにより、広範囲の知見や学生の発案から町の課題である人口減少やDX推進など、一歩ずつでも対応していけるように連携を図っていきたい」と述べました。吉田岐阜大学長からは「岐阜大学は日本一の地域中核大学を目指しています。垂井町にはものづくりの企業が多く立地しており、学生の実習や若い研究者の学びとなる場を提供していただくなど、地域定着・地域貢献につながる連携を図っていきたい」と挨拶がありました。

今後、本学と垂井町は、人口減少及びDX推進に関することを中心に連携を深め、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



懇談の様子



協定書を手にする（左）早野町長と吉田学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/11/25	中日	愛知銀・中京銀 岐大と協定 産学の連携強化へ ～ 王志剛 副学長（産学連携担当） ～

神戸町と連携に関する協定を締結

【概要】

岐阜大学は、令和6年1月22日（月）に神戸町と連携に関する協定を締結しました。本学と神戸町は、これまでも大学教員が防災に関する講演会や訓練、看護学生の実習の受入を行うなど連携を進めてきました。本協定では、本学と神戸町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。

なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは35件目です。

協定締結式では、藤井神戸町長が「岐阜大学とこれまで防災や看護学生の受入れなどで連携を深めてきた。これまで以上にレベルアップした防災研修や看護実習の実施のみならず、教員や学生にまちづくりワークショップなどへ参加いただき、より一層広範囲の知見や学生の柔軟な発想をいただくなど、町の活性化につながる連携を期待している」と述べました。吉田岐阜大学長からは「岐阜大学は日本トップクラスの地域中核大学を目指しており、産業・まちづくり、ものづくり・食づくり、医療づくり、人づくりを強みにしている。神戸町にはものづくりの企業が多くあり、特産のバラや小松菜などの生産も盛んである。学生の実習や若い研究者の学習・研究の場の提供をお願いするとともに、次世代の若者たちが働きやすく、暮らしやすいまちづくりを目指して、連携を図っていきたい」と挨拶がありました。

今後、本学と神戸町は、人口減少及び防災対策に関することを中心に連携を深め、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



協定書を手にする（左）藤井町長と吉田学長



特産のバラの花束贈呈後の（左）藤井町長と吉田学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/1/23	岐阜	地域の福祉充実へ連携 神戸町と岐阜大が協定 ～ 吉田和弘 学長 ～
2024/1/25	中日	岐阜大と神戸町が協定 ～ 吉田和弘 学長 ～

池田町と連携に関する協定を締結

【概要】

岐阜大学は、令和6年2月13日（火）に池田町と連携に関する協定を締結しました。本学と池田町は、これまでも大学教員が人口ビジョンに関する会議や特産品の認定審査に関わるなど連携を進めてきました。本協定では、本学と池田町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。

なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは36件目です。

協定締結式では、岡崎池田町長が「岐阜大学とこれまで、まちづくりに関する取り組みで連携を深めてきた。わが町は自然豊かで、夜景や温泉でも有名な名所も多くあり、連携協定締結を機に、さらに進む人口減少に備えて、町の特徴を活かしたまちづくりを貴学と連携して、進めていきたい。」と述べました。吉田岐阜大学長からは「岐阜大学は日本トップクラスの地域中核大学を目指しており、産業・まちづくり、ものづくり・食づくり、医療づくり、人づくりを強みにしている。池田町にはライフサイエンスの企業が多くあり、学生の実習や若い研究者の学習・研究の場の提供をお願いするとともに、学生たちが池田町の自然や観光名所を勉強させていただき、まちづくりにつながる若者ならではの提案を行うなど、若者が集まるまちづくりを目指して、連携を図っていきたい。」と挨拶がありました。

今後、本学と池田町は、人口減少対策及び人材交流に関することを中心に連携を深め、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



懇談の様子（左）岡崎町長と吉田学長



協定書を手にする（右）岡崎町長と吉田学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/2/14	中日	持続可能な町へ学生の提言を 池田町が岐阜大と ～ 吉田和弘 学長 ～
2024/2/17	岐阜	政策提言、人材育成で協力 岐阜大と池田町が連携協定 ～ 吉田和弘 学長 ～

「岐大生 住んでみよう!」プロジェクトを開始し、 学生が揖斐川町に住み始めます

【概要】

本学は、揖斐川町と「岐大生 住んでみよう!」プロジェクトを開始し、学生が揖斐川町に住み始めます。

本プロジェクトは、自家用車を利用し30分程で本学と行き来できる揖斐川町のアパート等に、本学学生が居住できる仕組みを創り、安心・安全に大学での勉学・研究に勤しむことのできる良好な学習・研究環境、生活環境を整備するとともに、学生が、地域の草の根的な活動等にも積極的に参加することで地域の活性化やにぎわい創出に繋げ、地域貢献を果たすことを目的としています。

本学学生の約6割は愛知県出身者で、電車とバスを乗り継いで通学しており、特にJR岐阜駅でのバスの乗り換えは、長蛇の列で不便を感じています。一方、揖斐川町においては、少子高齢化、過疎化が進み、若者の流出、人口減少、地域の衰退が課題となっています。本学と揖斐川町は、平成28年1月に包括連携協定を締結しており、特に応用生物科学部において、授業や研究活動で連携した活動を進めており、そのご縁もあって、今回このような取組を実施することとなりました。令和6年2月26日(月)には揖斐川町と本プロジェクトに関する協定を締結しました。

本学と揖斐川町は、実施にあたり1月から入居希望者の募集や選定を行い、入居者を決定しました。入居する学生は4月から揖斐川町のアパート等に居住し始めます。

本学は学生の教育研究環境の整備を進めると共に、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



本プロジェクトに関する協定書を手にする岡部町長（左）と吉田学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/2/27	中日	住んで知ろう 揖斐川町の魅力 町と岐阜大が協定 大学から30分 住宅提供 ～「岐大生住んでみようプロジェクト」、吉田和弘 学長～
2024/2/27	岐阜	学生ライフ 揖斐川町で 地域行事に参加、家賃は無料 町と岐阜大が協定 ～「岐大生住んでみようプロジェクト」、吉田和弘 学長～

第1回SPARC-GIFUシンポジウムを開催

【概要】

令和6年3月13日（水）に、第1回SPARC-GIFUシンポジウムを岐阜大学講堂において対面形式及びWebでの同時配信にて開催しました。

このシンポジウムは、地域活性化人材育成事業～SPARC～への採択を契機とした一般社団法人高等教育ネットワーク岐阜の設立及びSPARC-GIFU地域連携プラットフォームの結成を記念し、岐阜地域でのSPARC事業（SPARC-GIFU）の紹介を行うとともに、今後の展望を産官学金各団体とディスカッションするために開催し、当日は対面参加・Web参加合わせて100名以上の方に参加いただきました。

初めに主催者である岐阜大学、中部学院大学及び岐阜市立女子短期大学の各学長から挨拶があった後、文部科学省高等教育局大学教育・入試課の山田課長補佐からSPARC事業の説明、各大学からSPARC-GIFU事業の活動紹介がありました。その後、山梨大学の奥田理事・副学長から招待講演をいただき、SPARC-GIFU地域連携プラットフォーム加盟団体によるパネル・ディスカッションを行いました。

パネル・ディスカッションでは、産官学金の各方面から現状の課題やSPARC-GIFU事業への期待などが活発に意見交換され、会場からは「大学だけでなく、企業等様々な角度からのお話が聞けたことがよかった」「大学教育の中で、社会と接点を持ち、社会の課題解決に取り組むという体験が重要であるという発言に共感した」などの声が寄せられ、今後の事業推進に際してとても有意義な場となりました。

今後ともSPARC-GIFU事業に邁進してまいりますので、本事業へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



吉田学長による挨拶



パネル・ディスカッションの様子

白川町と連携に関する協定を締結

【概要】

岐阜大学は、令和6年3月14日（木）に白川町と連携に関する協定を締結しました。本学と白川町は、これまでも大学教員が住環境に関する受託研究や地域学校協働活動の促進にかかる支援を行うなど連携を進めてきました。

本協定では、本学と白川町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。

なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは37件目です。

協定締結式では、佐伯正貴白川町長が、「岐阜大学とは、これまで、多方面で連携を深めてきた。わが町の人口は、年々200人ずつ減少しており、大変深刻な状況にあり、少子高齢化が加速している。若い世代の人口が少ないので、ぜひ学生さんや若い方の意見をいただき、町の特産である白川茶や木材産業を盛り上げることにより、地域定着を図っていけるよう、貴学と連携して、進めていきたい。」と述べました。吉田和弘岐阜大学長からは、「岐阜大学は日本トップクラスの地域中核大学を目指しており、産業・まちづくり、ものづくり・食づくり、医療づくり、人づくりを強みにしている。白川町の特産品を活かしたライフサイエンスや創薬といった分野で、学生の学ぶ場の提供をお願いするとともに、人口減少や多くの課題を解決に導く人材育成に貢献するなど、連携を図っていきたい。」と挨拶がありました。

今後、本学と白川町は、人口減少対策として、関係人口創出の取り組みであるオンラインコミュニティの運営とふるさと返礼品の商品開発に関することを中心に連携を深め、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



協定書にサインする佐伯町長（左）と吉田学長



協定書を手にする佐伯町長（左）と吉田学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/3/31	読売	岐阜大と白川町 地域人材育成へ 包括連携協定 締結式 吉田和弘 学長 ～

川辺町と連携に関する協定を締結

【概要】

岐阜大学は、令和6年3月26日（火）に川辺町と連携に関する協定を締結しました。

本学と川辺町は、これまでも大学教員がまちづくりや小学校再編、防災に関する連携事業を行うなど連携を進めてきました。本協定では、本学と川辺町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。

なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは38件目です。

協定締結式では、佐藤光宏川辺町長が、「岐阜大学とは、これまで、まちづくりに関しては10年来、防災については定期的に研修をお願いし、ボート部においては、昨年の全国大会などでお世話になっており、連携を深めてきた。わが町の人口は、令和2年に初めて9,860人となり、10,000人を下回った。今後も減少が著しく、大変深刻な状況にある。対応策などについて、ぜひ、先生方の知見や学生さん、若い方の意見をいただき、当町からも貴学へ勉強にうかがうなど、一緒に町の活性化に向けて取り組んでいきたい。」と述べました。吉田和弘学長からは、「岐阜大学は日本トップクラスの地域中核大学を目指しており、産業・まちづくり、ものづくり・食づくり、医療づくり、人づくりを強みにしている。川辺町の特徴を活かしてライフサイエンスや環境エネルギー、観光、人材育成といった分野で、お役に立てるのではと考えている。学生の学ぶ場の提供をお願いするとともに、人口減少や地域活性化に向けてともに考え、今まで以上の連携を図っていきたい。」と挨拶がありました。

今後、本学と川辺町は、人口減少による少子化対応として、小学校統廃合の課題や町民の防災意識向上に取り組み、安全で住みやすいまちづくり、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



協定書を手にする（左）佐藤町長と吉田学長



懇談の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/4/2	中日	人材育成 岐阜大とタッグ 川辺町が連携協定 ～ 吉田和弘 学長 ～